

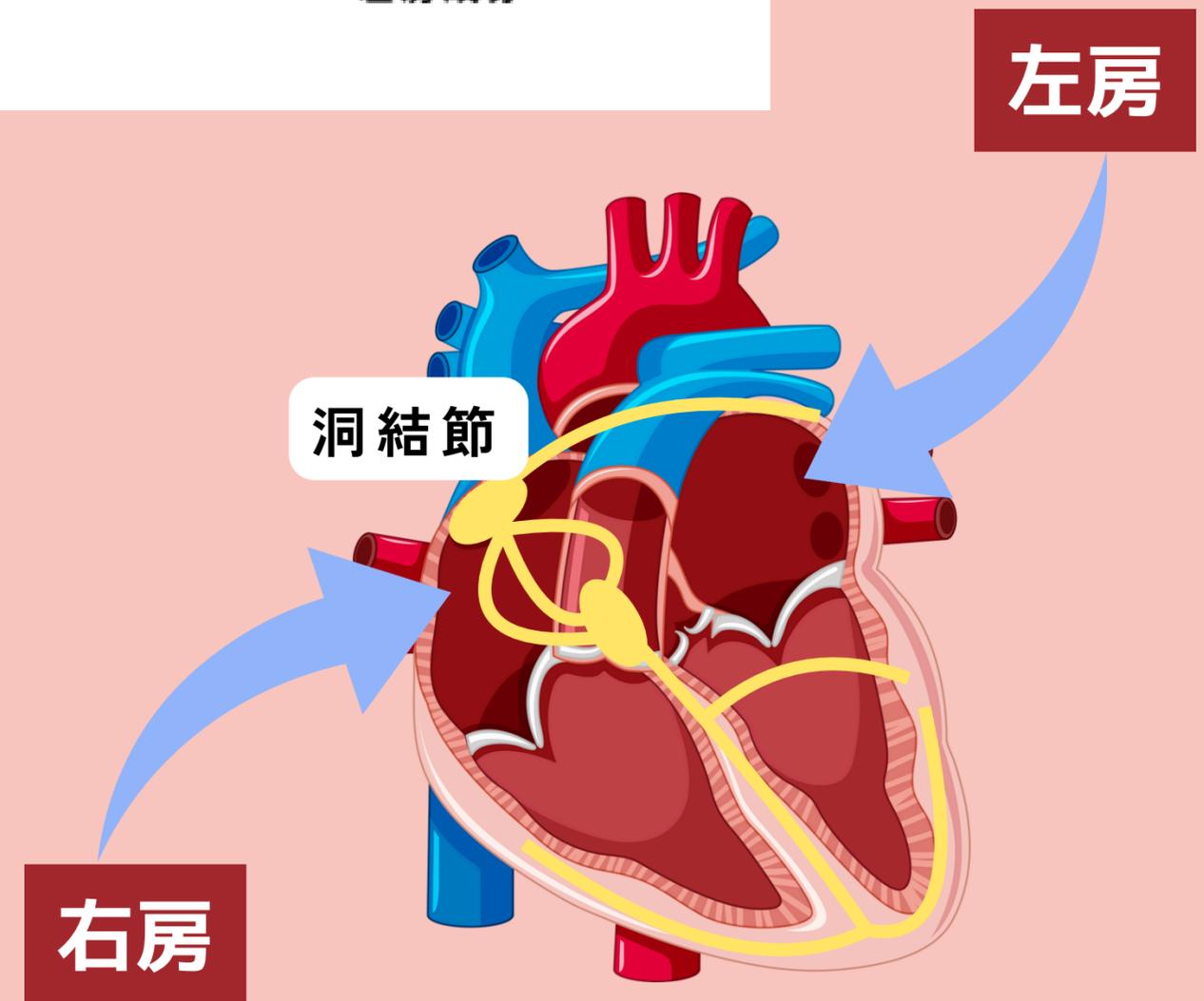
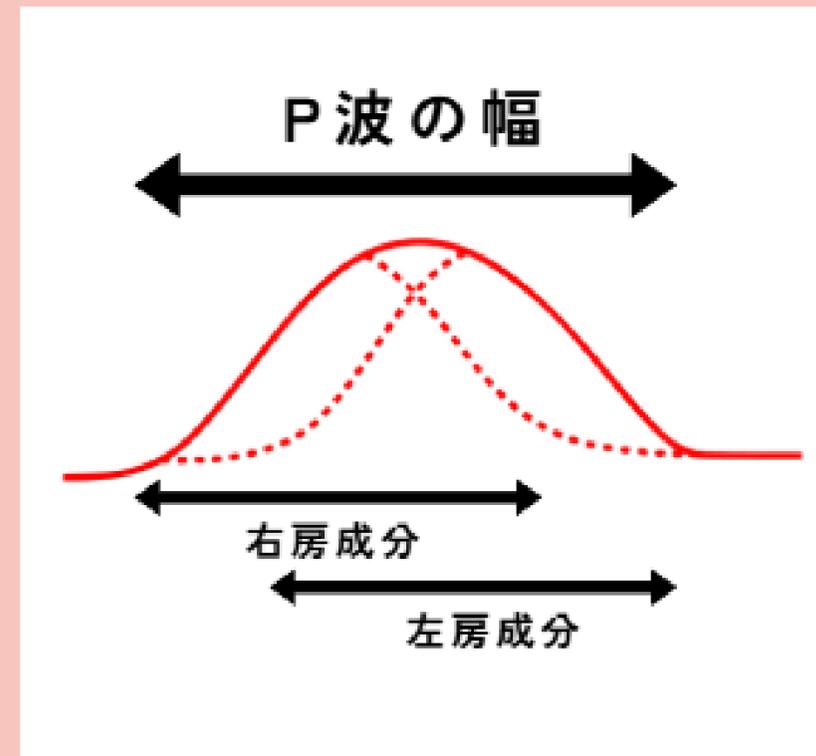
P波の幅と高さ について



左房負荷と右房負荷

P波の幅と高さとは？

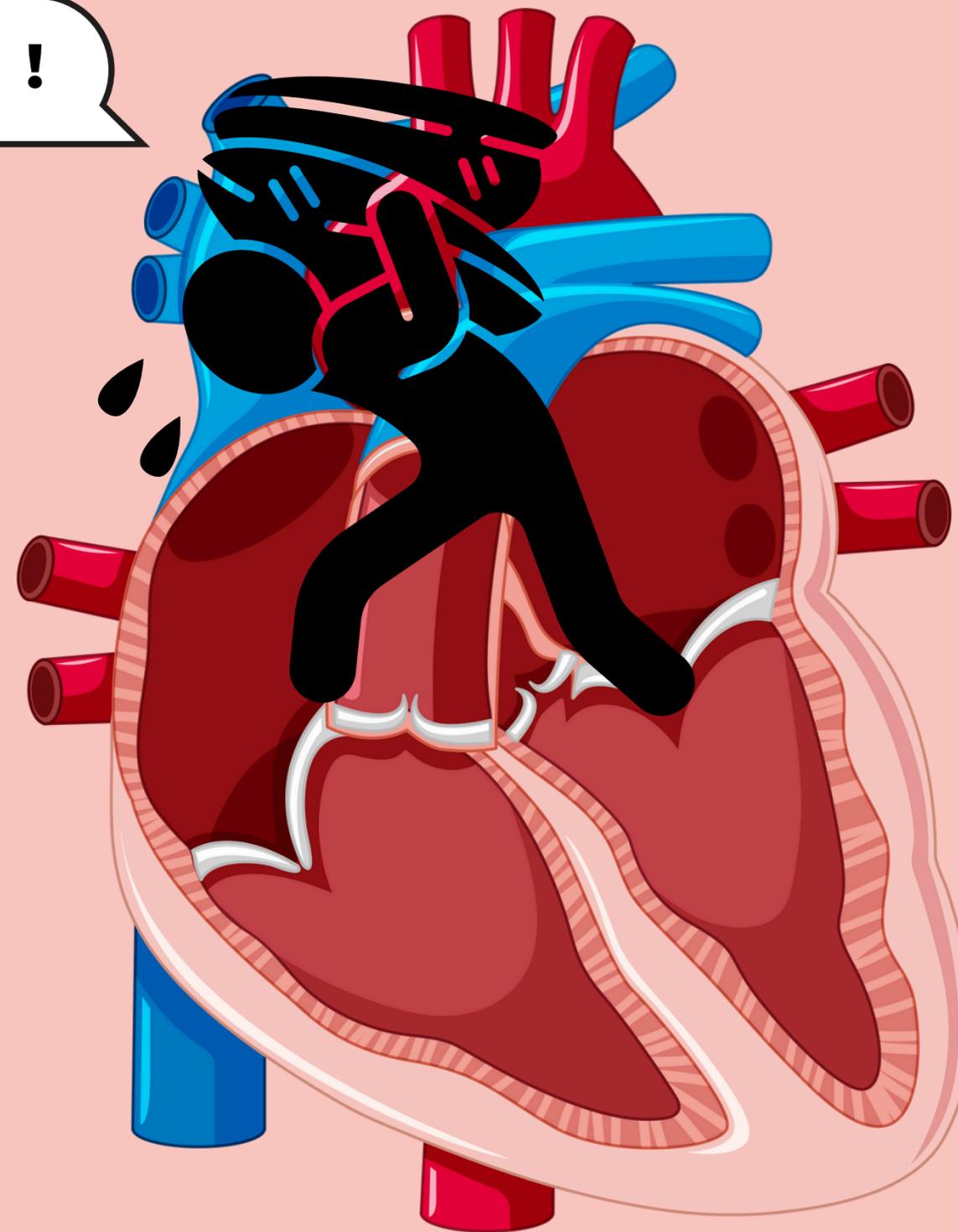
P波は心房の収縮を示していますが、心房には右房と左房があり、それぞれの収縮成分が合わさって心電図上のP波を形成しています。洞結節からの信号はまず右房に伝わり、その後左房へ広がるため、P波の前半が右房成分、後半が左房成分となります。



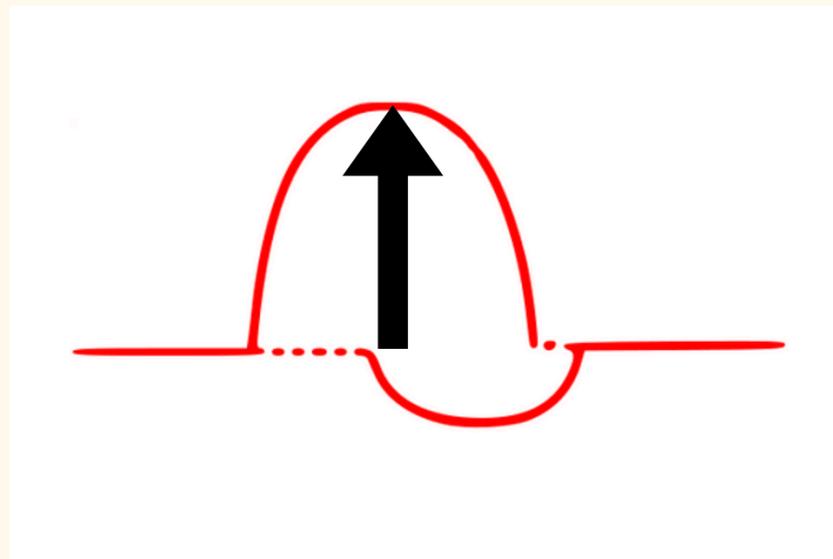
心房負荷とは

心房負荷は、血液の送り先である心室の圧が上昇したり、房室弁の逆流で心房が送り出す血液量が増えたり、房室弁が狭くなって送り出すためにより強い圧が必要になったりすることで起こります。
このような負荷が慢性的に続くと、心房は拡大し、心電図にも所見として現れます。
そのため、心房負荷＝心房拡大と考えられている。

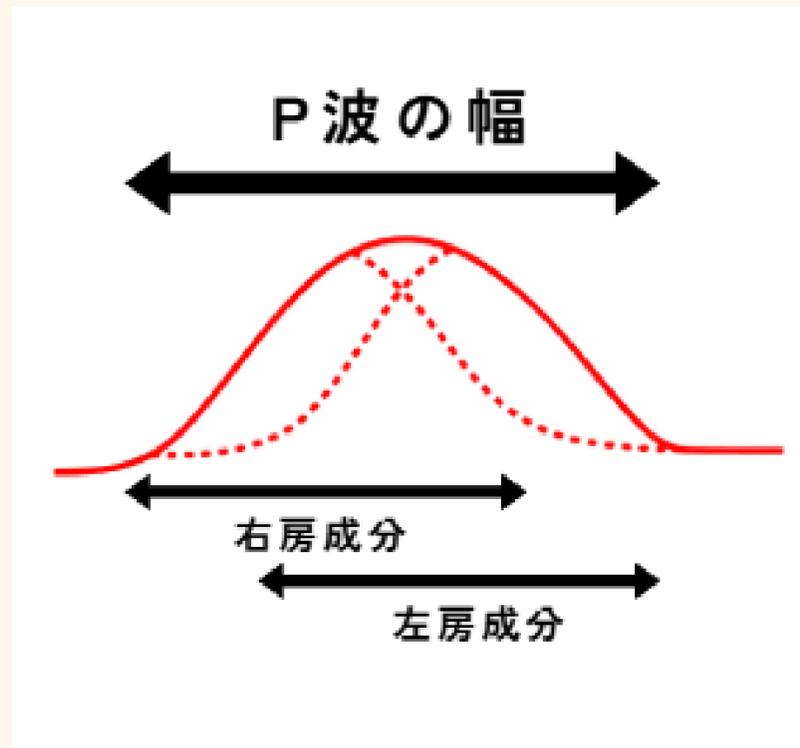
っ、っらい！！



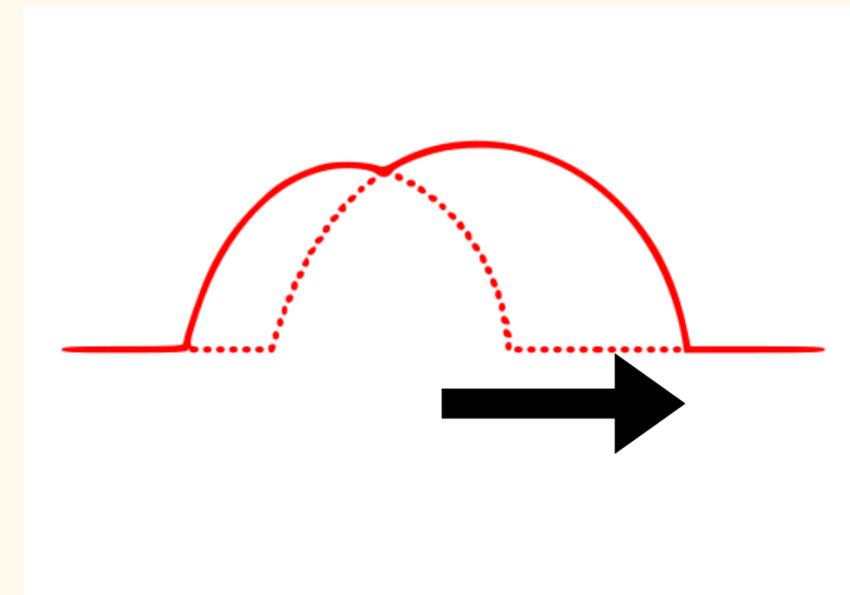
右房負荷



右房に負荷がかかって拡大すると、P波の右房成分が高くなり、波形が尖ってきます。



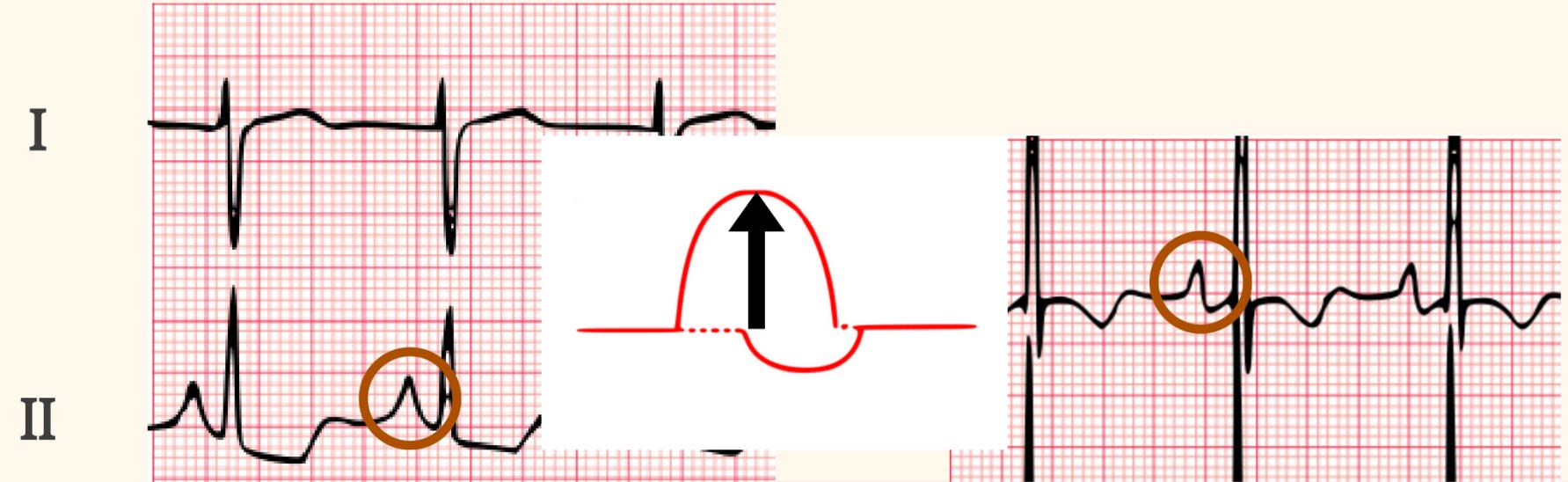
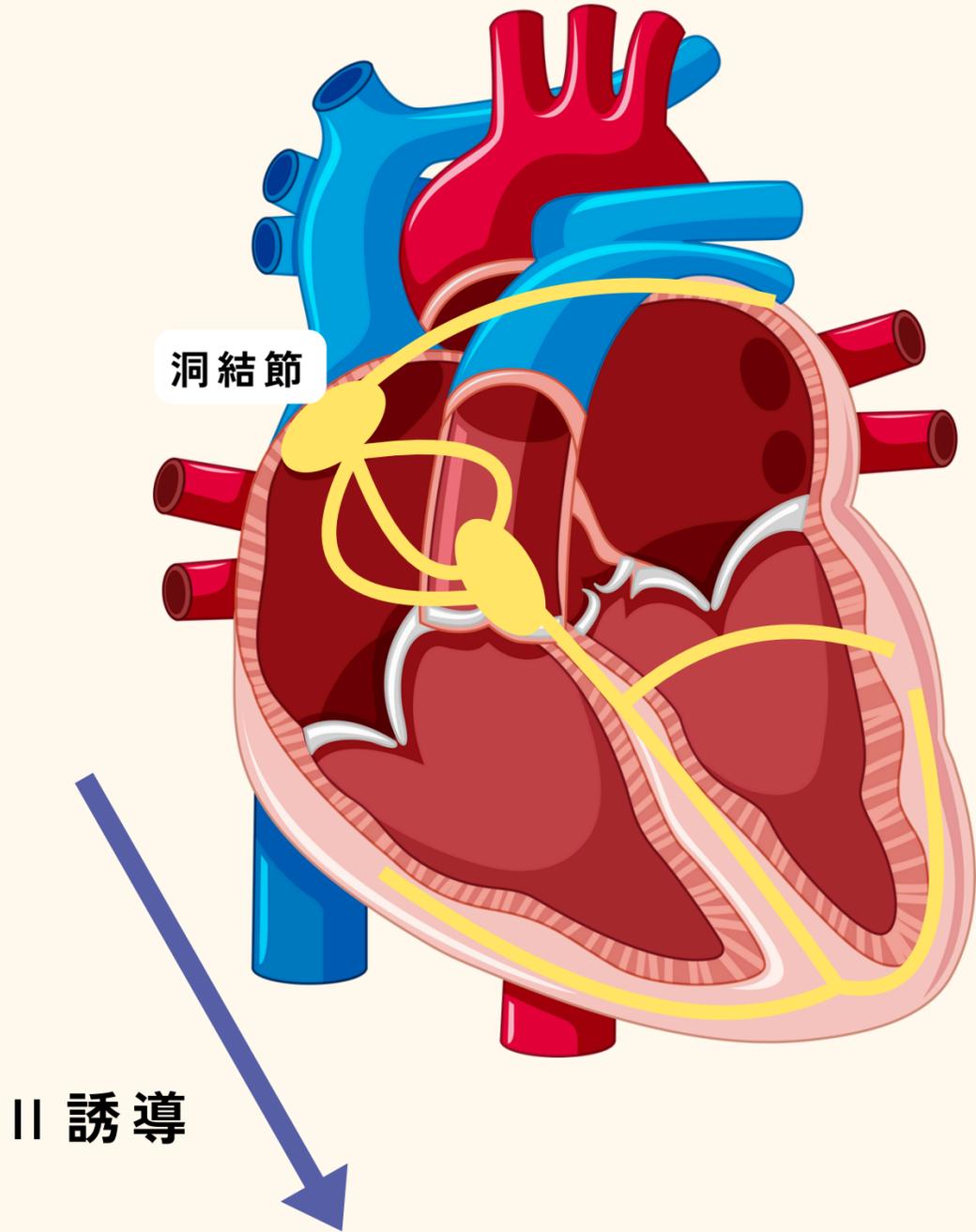
左房負荷



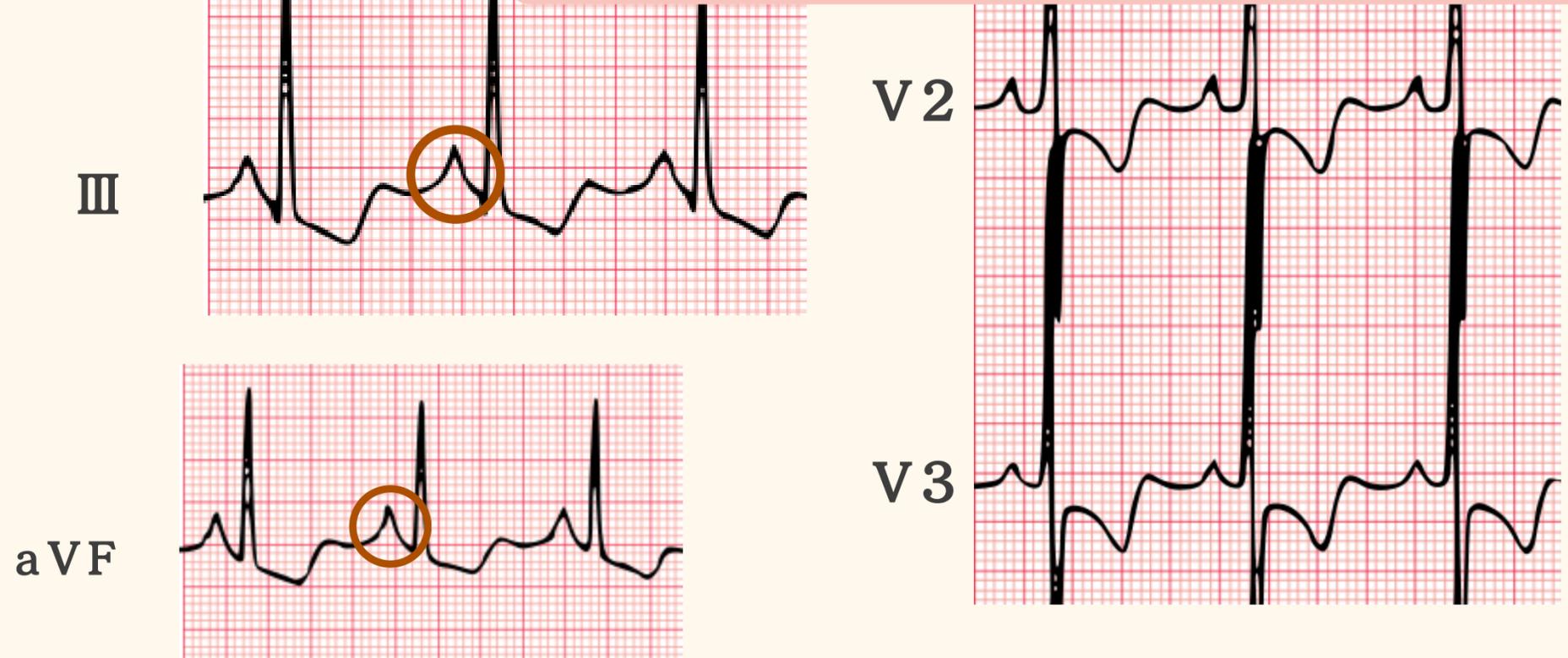
P波の後半が引き伸ばされるように伝導時間が延びることで、P波の幅が広がります。

右房負荷

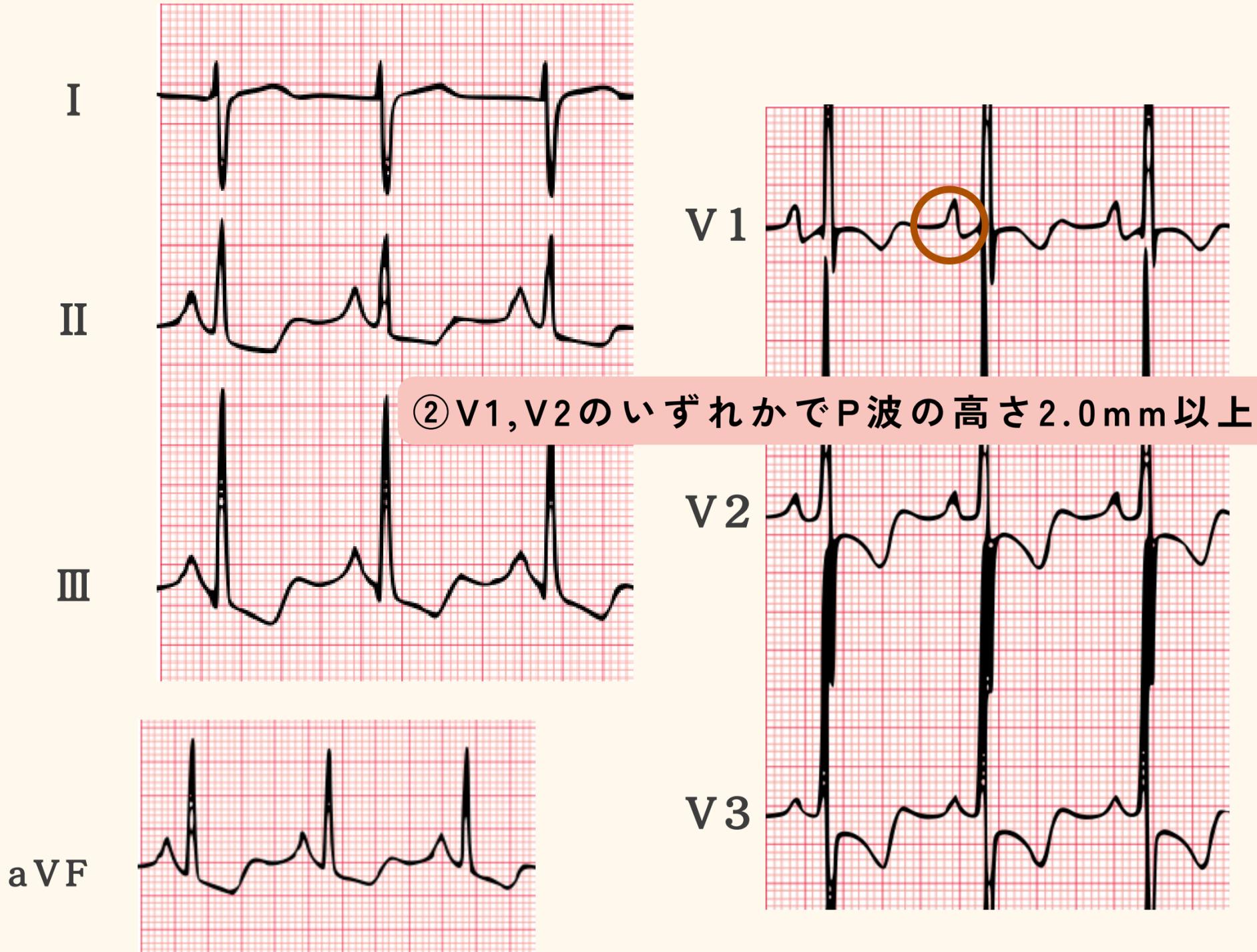
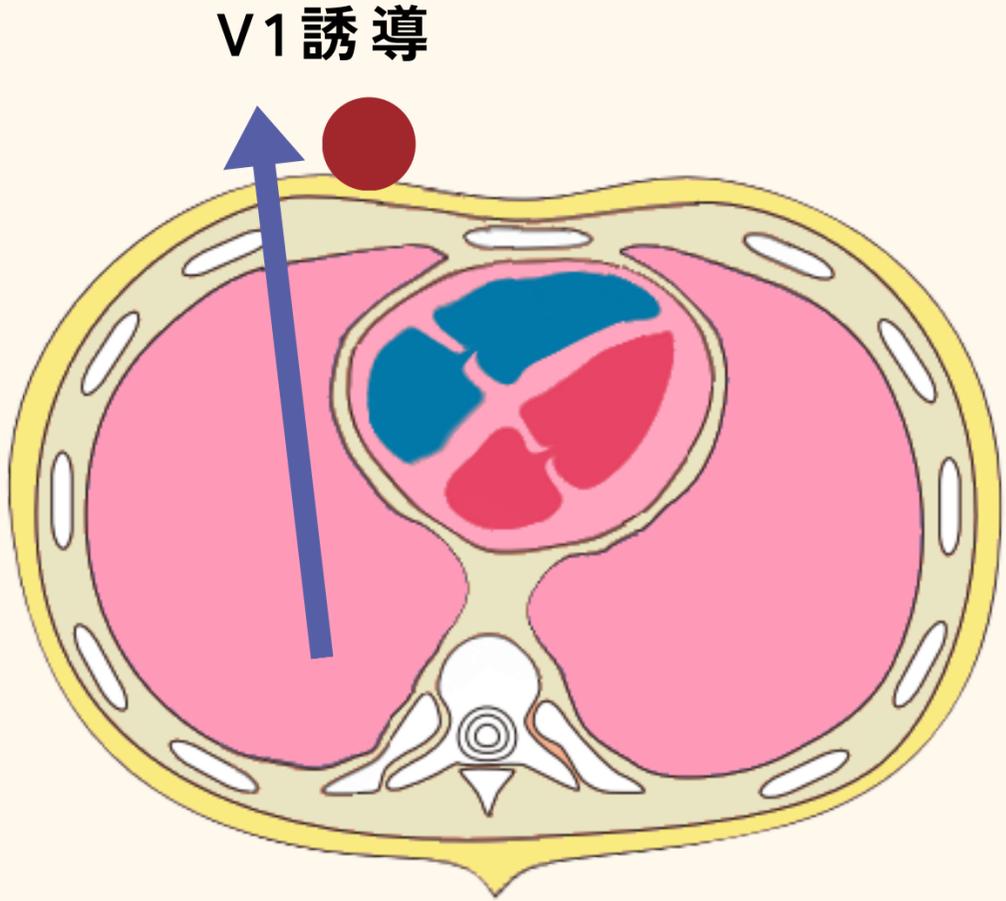
① II, III, aVFのいずれかでP波の高さが2.5mm以上



② V1, V2のいずれかでP波の高さ2.0mm以上



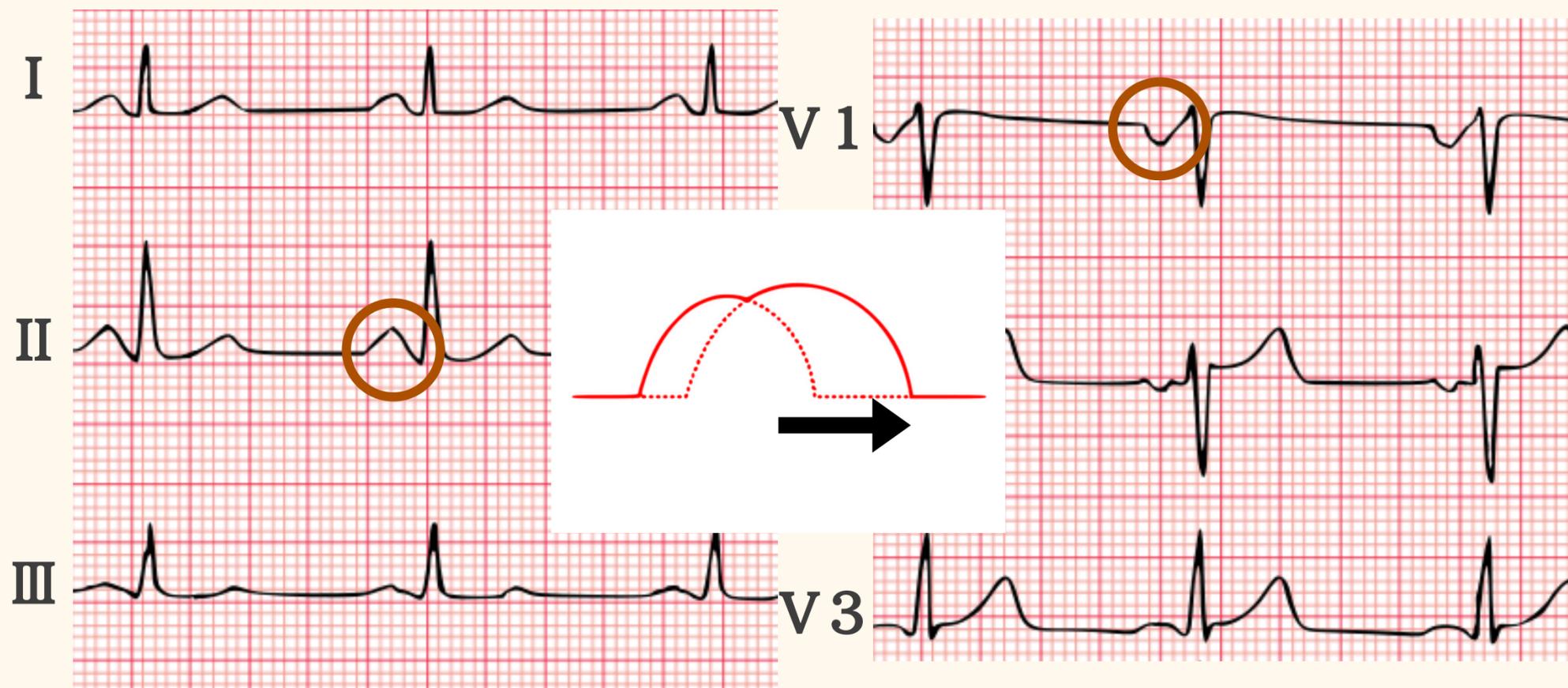
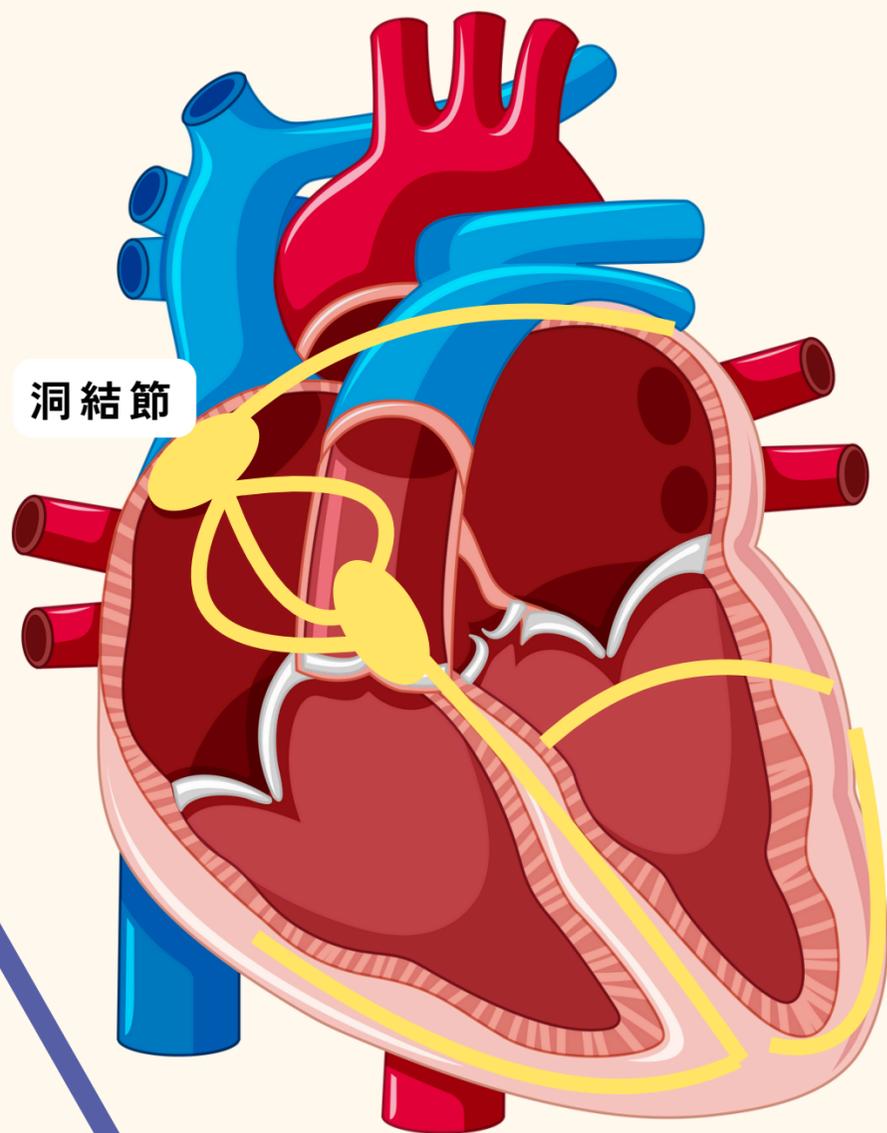
右房負荷



左房負荷

① II 誘導のP波の幅が3 m m 以上

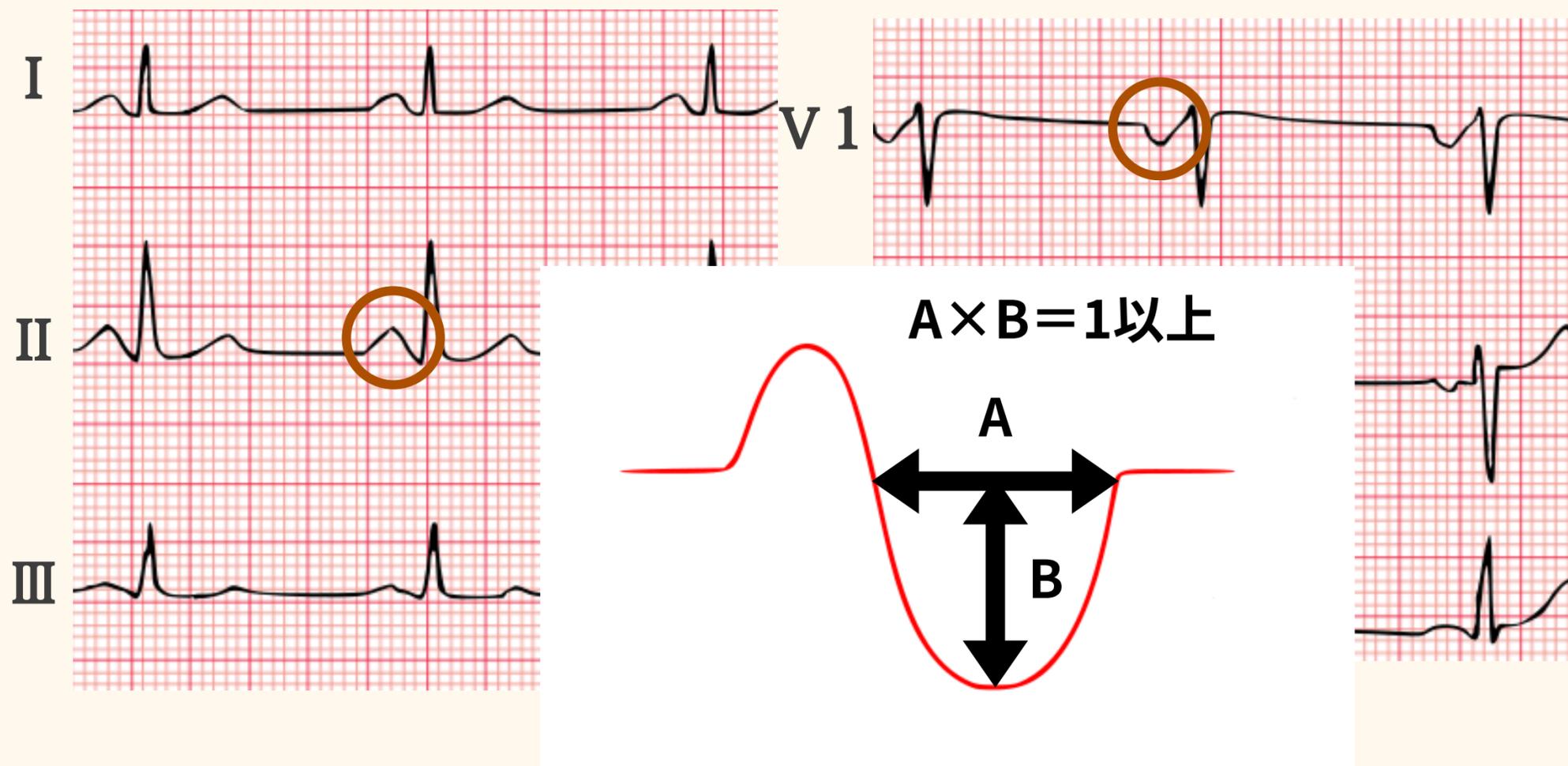
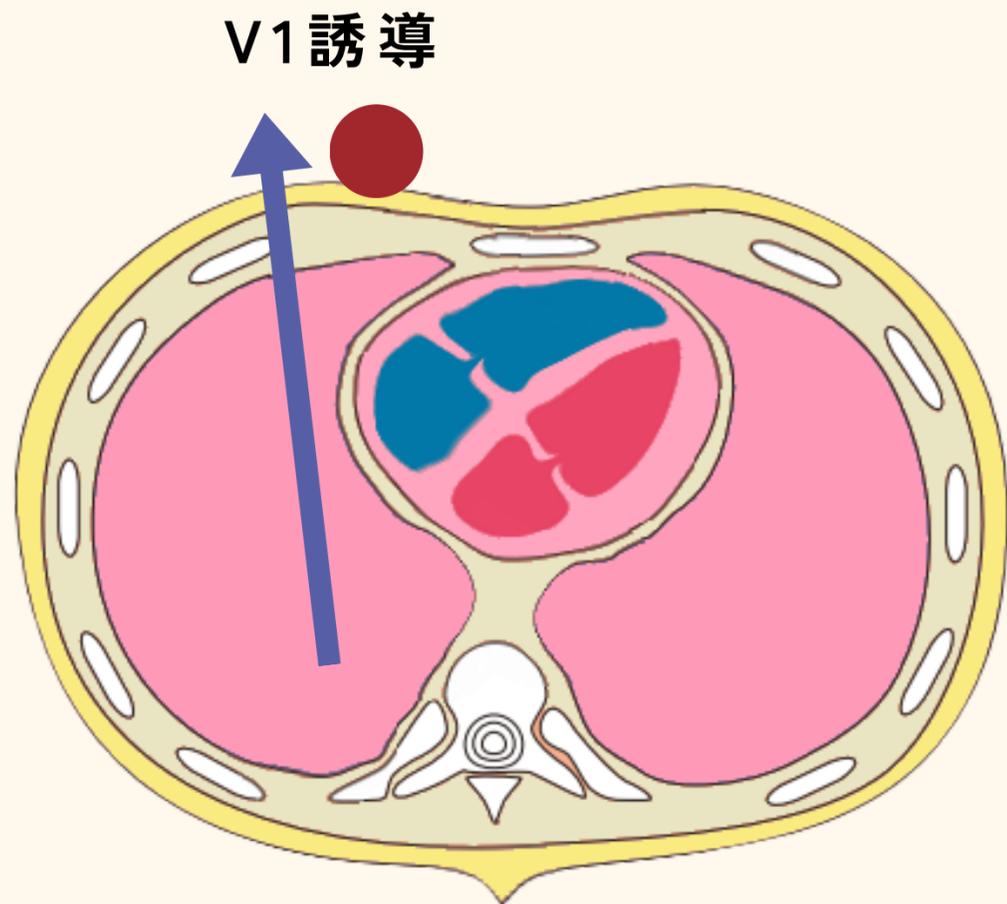
② V1誘導のP波陰性部分の【幅】×【深さ】が1以上



左房負荷

① II 誘導のP波の幅が3 m m 以上

② V1誘導のP波陰性部分の【幅】×【深さ】が1以上

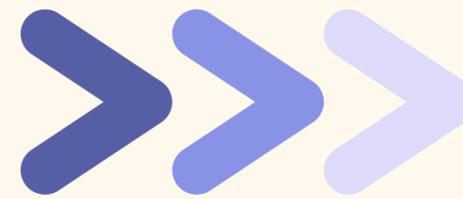


P波の幅と高さのまとめ

ココだけ抑えておけば判読できます！！

① II, III, aVFのいずれかで
P波の高さが2.5mm以上

② V1, V2のいずれかでP波の
高さ2.0mm以上



右房負荷

① II誘導のP波の幅が3mm以上

② V1誘導のP波陰性部分で
【幅】×【深さ】が1以上



左房負荷